

## 第4章

# 越前おおのの魅力あふれる 活力あるまち

基本施策21	越前おおの総ブランド化の展開	68
基本施策22	越前おおの型農業の推進	70
基本施策23	森林整備の推進と林業の振興	74
基本施策24	中心市街地の活性化	76
基本施策25	戦略的な観光の推進	78
基本施策26	地域間交流の推進	80
基本施策27	定住の促進	82
基本施策28	雇用の確保と働く環境の整備	84



基本施策21 越前おおの総ブランド化の展開

現状と課題

これまで、農産物や加工品などの知名度を高めるため、アンテナショップ\*の開設や出向宣伝、平成大野屋事業などにより、情報発信を行ってきました。

ますます厳しさが増す経済状況の中、まちの活力を高めていくためには、中部縦貫自動車道が供用開始する大きな機会を見据えつつ、大野市ならではの魅力に着目した大野市全体のより良いイメージを創り上げ、これを大野市内外へ効果的に発信していくことが大切です。

人、歴史、文化、伝統、自然環境、食など大野市が誇る魅力ある素材のすべてを越前おおのブランドとして磨き上げるとともに、大野市全体としてのイメージを大野市内外にアピールすることで、市民が地域に自信を持つとともに、市民所得につなげていかななくてはなりません。

越前おおのブランド化をどのように進めるかを早急に確立し、市民が自ら誇れるものにすることが課題です。

施策1 越前おおのブランド化の推進

すべての市民が、自信を持って大野市外の人に越前おおのブランドを紹介することができるよう、ブランド戦略を立案し、取り組みを進めていきます。

主な事業 ●越前おおのブランド推進体制の構築

施策2 越前おおのブランドの発信

マスコミや企業を効果的に訪問し、越前おおの魅力を発信するとともに、テレビ、ラジオ、新聞などを活用した宣伝活動や、JRの駅や高速道路のサービスエリアを活用した宣伝活動を展開するなど、広がりのある情報発信に努め、特産品の販路拡大や誘客、企業誘致につなげます。

中京、関西、関東方面への情報発信を強化するため、観光商談会に積極的に参加するとともに、社団法人大野市観光協会や株式会社平成大野屋などと連携した出向宣伝を展開します。

主な事業 ●特産品の販路拡大 ●越前おおのブランドの発信

施策3 越前おおの産地保証制度の確立

一般財団法人越前おおの農林楽舎による集荷販売システムや「越前おおの里の恵み」認証制度\*、「越前おおの産」産地保証制度\*を農林業者と連携することで、特産品の販路拡大とブランド商品の拡大を図り、越前おおのブランドにつなげます。

主な事業 ●特産品の販売支援 ●「越前おおの里の恵み」認証制度 ●「越前おおの産」産地保証制度

施策4 特産品や地場産材などの利用促進

贈答品などにおいて、市民が誇りと自信を持って大野市の産品を利用できるよう物品の品質向上とブランド化の促進に取り組みます。

また、公共事業での県産品の工事用資材や間伐材の活用を推進します。

主な事業 ●特産品の品質向上に向けた取り組みへの支援 ●工事用資材などにおける地場産材や間伐材の利用

施策5 越前おおの食の伝承と活用推進

関係機関・団体との連携により、市民一人一人が、生涯を通じた健全な食生活の実現、食文化の継承、健康の確保などが図れるよう、自らの食について考える習慣や食に関するさまざまな知識と食を選択する判断力を身に付けることができる取り組みを推進します。

主な事業 ●食育・地産地消\*の推進 ●食文化の伝承に対する支援 ●大野市内学校給食への地場産食材の提供

成果指標

指標	内容	平成22年度現状	平成27年度目標
ブランド発信にかかわる人数	越前おおのブランド大使*、越前おおのサポーター*、平成大野屋支店主と番頭*、観光ボランティアの総人数	165人	200人
里の恵み認証登録者数	「越前おおの里の恵み」認証の登録者数	9人	20人
産地保証登録者数	「越前おおの産」産地保証の登録者数	63人	100人





基本施策22 越前おおの型農業の推進

現状と課題

大野市の豊かな自然と清らかな水から、豊かな農産物が生産されています。

また、農地は多くの生き物が生息する場ともなっており、農業生産の営みと一体となった二次的自然\*を形成し、地下水かん養機能、洪水防止機能など多面的な機能を有しています。

一方、昨今の米価の下落や原材料価格の高騰、後継者不足など農業を取り巻く環境は一段と厳しく、また、農山村においても人口減少や高齢化の進展などに伴う地域活動の機能低下が見られる状況にあり、農業と農山村の活性化が求められています。

多様な担い手の確保と育成に当たっては、従来の認定農業者\*や農業生産法人\*だけでなく、意欲と能力のある農業者や新規就農者も担い手として位置付け、農業経営者としての育成を支援する必要があります。

農産物の総ブランド化の推進については、里芋、ネギ、キク、ナス、ソバ、穴馬スイートコーン、穴馬かぶらなどを特産作物として位置付け、有機農業など環境調和型農業の推進と併せて生産・出荷振興に努めてきましたが、今後は、より付加価値の高い農産物加工品の開発のため、積極的な農商工連携\*が必要となります。

農業用水路や排水路の多くは整備されてから30年以上が経過し老朽化が進んでおり、農業経営の安定のため施設の更新や改良が必要となっています。

また、現在の遊休農地は1%未満ですが、今後、遊休農地の増加が心配されることから、適正な農地管理が課題となっています。

さらに、個体数が異常に増加したイノシシやシカなどの有害鳥獣による農作物に対する被害拡大などへの対応も課題となっています。

施策1 農業と農山村の活性化対策

大野市の農業の方向性を示す越前おおの型 食・農業・農村ビジョン\*について、農業所得の向上や農山村の活性化、中山間地域の振興に向けた改訂を行います。

誰もが住みたくなる、活力のある農山村集落の実現を図るため、10年先を見越した各集落の取り組みに対して支援します。

農地や農業用水路などの資源を集落や地域ぐるみで保全することや、良好な農山村環境の形成や環境を重視した農業生産の取り組みに対して支援を行います。

高齢化の進展に対応した農山村の近隣集落との互助精神を基本とする自主的な取り組みへの支援など、集落機能の維持に取り組みます。

主な事業

- 越前おおの型 食・農業・農村ビジョンの改訂
- 農村集落カルテ\*に基づく農業と農山村への支援
- 地域おこし協力隊員の誘致
- 中山間地域への直接支払制度
- 集落の連携への支援

施策2 多様な経営体の共生による農業の振興

それぞれの集落や地域の実態に即した、多様な担い手の確保や育成支援を行います。

大規模農家が効率的かつ安定的な農業経営を継続できるよう、機械や施設整備などへの支援のほか、経営改善に係る指導や助言を行います。

意欲のある小規模農家に対する支援を行います。

新規就農者が、安心して農業に携わることができるよう条件整備を行います。

畜産農家が経営を継続できるよう、耕作農家と畜産農家の連携を促進するとともに、施設整備などへの支援や後継者の確保を行います。

主な事業

- 小規模農家への支援
- 農業に参入する企業などへの支援
- 新規就農者への支援
- 農業収益の向上への支援
- 農業後継者の確保育成
- 畜産農家への支援



### 施策3 農産物の総ブランド化の推進

特産作物の生産・出荷奨励支援の継続や地域の自然環境を活用した農産物のブランド化を図るとともに、農商工連携による付加価値の高い加工品開発を促進するため、一般財団法人越前おおの農林楽舎や関係機関・団体と連携しながら、食品製造業者などとの異業種交流を推進し、越前おおのブランドとしての安全で安心な農産物加工品の開発や供給体制の強化などへの支援を行います。

#### 主な事業

- 特産作物の生産促進 ●「越前おおの里の恵み」認証制度（再掲）
- 特産作物の加工品開発や販路拡大への支援

### 施策4 農地の適正な管理と農業基盤整備の推進

農地の集積や効率的な利用、適正な管理は重要であり、農家や地域の意見も踏まえながら、大野市農業振興地域整備計画の改訂を行います。

農業委員会が中心となって、農地の適正な管理の指導を行うとともに、耕作放棄地の発生防止と農地への再生に対する支援を行います。

農業生産基盤を整備し、個性豊かで活力ある農山村づくりを進めるとともに、農山村の協働力を生かした農地や農業用施設の整備を推進します。

#### 主な事業

- 耕作放棄地の再生 ●県営・県単・市単などの土地改良事業

### 施策5 鳥獣被害のない里づくりの推進

森林や農作物に被害を及ぼし、住環境を悪化させる有害鳥獣の捕獲体制を強化し、個体数の削減を図るとともに、鳥獣被害を受けにくい作物の栽培の検討や、地域ぐるみで実施する自主防除対策への支援を行います。

鳥獣被害の防止に有効とされていることから、農地と山林などとの間へ山ざわ緩衝帯の整備を推進します。

#### 主な事業

- 鳥獣被害のない里づくりの推進 ●地域ぐるみでの有害鳥獣対策の推進
- 鳥獣対策における山ざわ緩衝帯の整備の推進

#### 成果指標

指標	内容	平成22年度 現状	平成27年度 目標
活性化に取り組む集落数	活性化モデル集落への累積支援数	7集落	30集落 (24年度)
新規就農者数	新規就農を支援した人の累積人数	15人	27人
特産作物の生産促進	里芋、ネギの作付面積	里芋 124ha ネギ 25ha	130ha 30ha
耕作放棄地の再生	農地への再生面積	0.5ha	2.0ha
農道舗装整備率	実農道延長に対する舗装済み延長の割合	78.2%	80.0%

#### 越前おおのの農作物



水稲



里芋



ネギ



穴馬スイートコーン



農村集落カルテのヒアリング



軽トラ野菜市の開催





基本施策23 森林整備の推進と林業の振興

現状と課題

木材価格の低迷により林業の採算性は著しく悪化し、森林所有者の経営意欲が失われつつあり、伐期を迎えた木が市場に出回らない状況にあります。

また、境界が不明確になっていることから、一部に手入れの行き届いていない荒れた森林が見られるため、境界の明確化などにより適正な森林整備を図り、計画的な木材生産を行う必要があります。

さらに、林業従事者の減少と高齢化が進んでおり、林業の担い手の育成と林業従事者の雇用の安定を図る必要があります。

林業の基盤となる林道や作業道などの密度が低いことや、道が狭く路面が荒れた路線も多いことから、林業の機械化や広域化が進まず林業経営に支障を来しているため、林道などの整備を推進していく必要があります。

特用林産物の生産は、家族経営が多く、高齢化が進んでいることから、全体的に減少傾向にあるため、生産物の栽培を促進させる必要があります。

施策1 適正な森林整備と地場産材の活用促進

所有者間の合意の下、境界の明確化を推進し適正な森林整備を図るとともに、木材の地産地消のため地場産材の活用を推進します。

主な事業 ●地場産材の活用推進 ●間伐材搬出への支援

施策2 林業の担い手育成

林業の担い手である林業作業士の育成支援や、林業従事者の雇用の安定化と福祉の向上を図るための支援を行います。

主な事業 ●林業作業士の育成 ●林業退職金共済への助成

施策3 林業活性化のための林業生産基盤施設の整備

林業の活性化のためには、森林へのアクセスの改善や木材・間伐材の搬出の機械化を促進していく必要があります。林業の基盤となる林道や森林整備のための作業道などの整備を推進します。

主な事業 ●森林基幹道や林道の整備促進

施策4 特用林産物の栽培促進

特用林産物の栽培促進のため、生産基盤の整備を支援するとともに、希少価値の高い特用林産物についての生産や出荷に対する支援を行います。

主な事業 ●特用林産物の生産促進 ●特用林産物の生産基盤などの整備

成果指標

指標	内容	平成22年度 現状	平成27年度 目標
間伐材搬出材積	間伐材の搬出材積	2,750㎡ (21年度)	3,500㎡
林業作業士育成数	森林組合で働く林業作業士数	23人	33人
林道舗装率	林道の舗装率	38.9%	47.3%



林道の整備



昇竜まいたけの生産



基本施策24 中心市街地の活性化

現状と課題

大野市の中心市街地では、人口減少や高齢化が進行し、商店街の店舗の閉店により買い物が不便となり、空き地や空き店舗が増加することで土地利用も進まず、厳しい状況が続いています。

しかし、中心市街地は基盤の目のまち並みが今に残る城下町であり、このまち並みは大野市の宝であり、顔です。

人が集う、活気に満ちた城下町の再生を目指すため、地域住民の交流と、観光客など来訪者のまちなかへの回遊性を高め、産業の活性化を図る必要があります。

このため、越前おおの結ステーションを活用した賑わいの創出や越前おおのの情報発信とともに、来訪者の滞在時間が増えるよう満足度を高めていくことが求められています。

また、来訪者を惹きつけるために、商店街や歴史的なまち並みの魅力をさらに高めていくことも必要となっています。

施策1 越前おおの結ステーションの利活用

越前おおの結ステーションを適切に維持管理するとともに、関係団体と連携して、越前おおのリアルな情報を来訪者に提供します。

主な事業 ●越前おおの結ステーションの運営

施策2 “まちなか”満足度の向上

中心市街地に点在する観光施設や文化施設、史跡、商店街などを有機的に連携させることで、“まちなか”における満足度・充足度の向上に取り組みます。

また、来訪者の滞在時間を増やすことは消費拡大につながり経済効果も期待できることから、滞在時間増加のための仕掛けづくりに対する支援を行います。

主な事業 ●まちづくり会社や関係団体などへの支援  
●施設の共通入場券と一体となった食べ歩き・見て歩きマップの発行

施策3 魅力ある商店街の形成と商業の活性化

商店街の魅力向上や賑わいの創出のため、市民ニーズに応えると同時に観光客のニーズに対応した商品開発や魅力ある店舗が展開できるよう、開発、開業支援などを行います。

主な事業 ●商店街の賑わい創出への支援 ●地域力を生かした消費の拡大

施策4 歴史的なまち並みの保全や観光施設の整備

観光客を呼び寄せるため、歴史的なまち並みを将来にわたって保全する地域の取り組みを支援するとともに、観光施設の整備を推進します。

主な事業 ●亀山公園の整備 ●街なみ環境整備事業

成果指標

指標	内容	平成22年度 現状	平成27年度 目標
中心市街地の観光入り込み客数	大野市を訪れる観光客の総数のうち、中心市街地への年間入り込み客数	42.6万人 (21年)	52.5万人
歩行者通行量	まちなか6地点における歩行者通行量(休日)	2,869人 (21年)	3,700人



おおの城まつり



商店街の賑わい





基本施策25 戦略的な観光の推進

現状と課題

大野市では、越前おおの結ステーションの整備を進めることで、まちなか観光を一層充実させるとともに、農業体験や自然体験などのエコ・グリーンツーリズムも積極的に推進してきました。

一方、観光入り込み客数は、近年横ばい傾向にあり、さらに、日帰り客が圧倒的に多いため観光消費額が低く、周遊・滞在型観光の推進が課題となっています。

今後は、既存の観光資源の活用と新たな観光資源の発掘により、越前おおの総ブランド化の展開や中心市街地の活性化を図るとともに、中部縦貫自動車道の開通に伴う福井県の東の玄関口としての優位性を生かした観光振興を押し進める必要があります。

さらに、観光資源や歴史をテーマとしたイベントを企画し、都市圏への情報発信に努めるとともに、大野市の地理的条件を生かした広域観光を進めるなど、戦略的な観光の推進により、交流人口の拡大を図っていく必要があります。

施策1 観光資源の活用と発掘

人、歴史、文化、伝統、自然環境、食など既存の観光資源に磨きを掛けるとともに、新たな観光資源の発掘に努め、これらの資源を結ぶルートの設定に取り組みます。

城下町のまち並みや名水スポットなどの散策を中心としたまちなか観光を一層推進するとともに、エコ・グリーンツーリズムや教育旅行とも連携し、中心市街地の賑わいの創出につなげます。

観光客へのサービスの向上やリピーターの確保を図るため、観光客を快くお迎えするもてなしの心の向上など人材の育成に努めるとともに、案内サイン整備や観光地の説明を充実します。

- 主な事業
- 歴史散策観光の開発
  - まちなか観光客の誘致拡大
  - 学生合宿の誘致
  - 観光案内サインの整備

施策2 イベントの充実と広報の推進

既存のイベントを見直すとともに、個々のイベントの連携を図ることにより相乗効果を生み、誘客の拡大につなげます。

大野市の観光資源や歴史をテーマとしたイベント、例えば金森長近公や土井利忠公などの偉人に光を当てたイベントを実施します。

旅行会社やマスコミなどに対して、越前おおのブランドやイベントの情報発信と出向宣伝の取り組みを強化し、名古屋圏、大阪圏、東京圏などからの誘客の拡大を図ります。

- 主な事業
- 城まつり・四季の灯りまつり・九頭竜まつりなどの開催
  - 観光セールスの実施

施策3 周遊・滞在型観光の推進

まちなか観光と郊外を中心とするエコ・グリーンツーリズムを結ぶ観光ルートを設定し、宿泊者の増加を図ります。

中部縦貫自動車道の全線開通を視野に入れて、福井県内や北陸圏のほか、中京方面の観光地との連携による広域観光に取り組み、周遊・滞在型観光を推進します。

- 主な事業
- 福井坂井奥越広域観光の推進
  - 越前美濃街道広域観光の推進

施策4 エコ・グリーンツーリズムの推進

一般財団法人越前おおの農林楽舎を大野市のエコ・グリーンツーリズムの総合的な窓口として支援します。

農山村景観や伝統行事、食など地域特有の体験・滞在プログラムの企画や開発に対して支援します。

- 主な事業
- 一般財団法人越前おおの農林楽舎によるエコ・グリーンツーリズム団体などのネットワーク化
  - インストラクターの養成
  - ふるさと回帰希望者の受け入れ支援

成果指標

指標	内容	平成22年度現状	平成27年度目標
観光入り込み客数	大野市を訪れる観光客の年間総数	148万人(21年)	175万人



基本施策26 地域間交流の推進

現状と課題

これまで大野市では、姉妹都市や友好都市など福井県外の6市町と積極的に交流を図ってきましたが、交流人口を拡大するためには、より広範囲な地域と交流を促進する必要があります。

今後は、これら市町との友好的なつながりを生かしつつ、中部縦貫自動車道の全線開通を見据え、中京方面の都市との交流を強く進め、経済交流へ発展することが課題です。

施策1 広域的な交流の促進

交流促進を図る自治体との関係の見直しを行い、市民の姉妹都市などとの相互交流を支援するとともに、中京方面の自治体との広域交流の促進を図ります。

歴史的、地理的、経済的な縁やつながりを生かし、より広範囲な地域へと交流の伸展を図ります。

主な事業

- 市民団体の姉妹都市などとの交流への支援
- 中京方面の交流推進自治体への市民バスの運行
- 縁やつながりを生かした交流の推進

大野市との相互交流マップ



成果指標

指標	内容	平成22年度 現状	平成27年度 目標
交流を行う自治体数	姉妹都市などの交流に関する協定を締結している自治体数	6自治体	15自治体



花みこし（岐阜県美濃市）



高島流砲術（東京都板橋区）



郡上おどり（岐阜県郡上市）





基本施策27 定住の促進

現状と課題

大野市では、人口減少と少子化・高齢化が進展する中、農林業などの後継者不足や地域コミュニティ\*の維持が困難になるなどの問題が生まれています。  
 一方、都会では、スローライフ\*\*への関心や田舎暮らし志向が高まっています。  
 このため、都市圏に居住する人のニーズに的確に対応し、都会から大野市へ定住を促進し、地域の活性化を図る必要があります。

施策1 定住情報の提供とサポート体制の充実

大野市への定住に必要な情報の提供を行うとともに、定住についての市役所内の横断的なサポート体制を充実させ、相談や適切なサポートを行います。

また、都市圏開催のフェアへの参加やマスコミなどへの広告掲載を行い、継続した情報の提供を行います。

主な事業

- 越前おおの定住・交流促進会議、IJU（移住）サポートチームの運営
- 定住促進ポータルサイト\*の運営
- 空き家情報バンク制度の充実

施策2 定住促進対策

都市圏に住む田舎暮らしを希望する人に対し、大野市の魅力を知ってもらう交流体験の実施、定住に向けての準備や検討への支援などを行います。

定住に伴い必要となる住宅取得支援や就業就農支援などを行います。

主な事業

- 大野市内での各種体験を組み込んだプログラムの実施
- 県外者の定住を目的とする短期滞在への助成
- 定住交流促進滞在型施設の整備
- 定住のための住宅取得に対する助成

成果指標

指標	内容	平成22年度 現状	平成27年度 目標
定住受け入れ件数	平成20年度以降にIJU（移住）サポートチームが支援し、大野市外から大野市に定住した累積件数	6件	18件
定住のための住宅取得件数	定住のための住宅取得に対する助成の累積件数	58件	85件



越前おおの定住促進ポータルサイト



都市圏での移住・交流相談会



基本施策28 雇用の確保と働く環境の整備

現状と課題

大野市では、事業所数と従業員数が減ってきており、製造品出荷額や小売業販売額についても減少しています。

また、個人商店などにおいては経営者の高齢化や後継者不足が進み、経営革新や新たな事業に果敢に取り組む事業者が減少傾向にあります。

雇用情勢についても、有効求人倍率が福井県内で低い上、若者の流出や求人求職のミスマッチ\*が見られ、依然として厳しい状況にあります。

仕事場が少ないことが若者の流出の一つの原因となっています。

このため、経済的波及効果の高い企業の誘致による雇用の創出と、既存企業などに対する企業の体質強化や新分野への進出に対する支援による産業の活性化が必要となっています。

施策1 積極的な企業誘致

県や関係団体などとの連携を密にし、福井県内外企業などへ大野市が持つ地域資源などの情報提供を行うとともに、中部縦貫自動車道の全線開通による中京方面からの玄関口としての地理的優位性をPRし、積極的に企業誘致活動を行います。

主な事業 ●企業誘致活動 ●インフラの整備推進 ●誘致企業への支援策の充実

施策2 新たな産業の育成による雇用の確保

大野市が持つ地域資源を活用して新分野への進出や新技術の開発などを行う事業者に対し、支援を行います。

また、産業の活力を支える基盤は人であり、大野市の産業を元気にするためには、人材育成が何よりも重要であることから、各分野の産業を担う人材の育成に努めます。

主な事業 ●チャレンジする企業への支援 ●地域雇用の創造のための人材育成

施策3 生き生き働く職場環境の整備促進

大野市は共働きの世帯が多く、家計の重要な担い手となっていますが、子育て世代の女性の就業や再雇用が何よりも重要であることから、健やかで子育てをしながら働き続けることができる職場環境の整備を促進します。

主な事業 ●特定求職者の雇用への支援（再掲） ●育児休業などの取得促進（再掲）

施策4 生涯現役への就労支援

高齢者への職業紹介や就業に必要な知識と技能の付与を目的とした講習会の開催など、社団法人大野市シルバー人材センター、大野公共職業安定所（ハローワーク大野）などと連携しながら、高齢者が生涯現役として生き生きと暮らせるよう支援します。

主な事業 ●シルバー人材センターの活用（再掲）

成果指標

指標	内容	平成22年度 現状	平成27年度 目標
チャレンジ企業認定件数	チャレンジ企業認定累積件数	3件	10件
育児休業取組事業所数	育児休業取得制度に取り組む中小企業数	2事業所	5事業所



雇用創造推進協議会研修





越前おおの産業と食彩フェア（写真提供 大野商工会議所）



九頭竜紅葉まつり